

基本目標

成果指標	A	B	C	評価分析
健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合、自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合	0	0	2	基本目標の成果指標はいずれも平成28年(2016年)に低下しており、平成28年熊本地震による被災の影響が考えられる。その後コロナ禍においても「健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合」は横ばい傾向、「自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合」は増加傾向。
合計	0	0	2	

次期計画の方針
地震による被災や新興感染症が蔓延する中であっても健康づくりについての市民の関心は高まっている一方、健康に暮らしていると感じている市民は増えておらず、今後も健康増進の取組を継続し、強化していくことが必要。

成果指標	A	B	C	評価分析
(1)がん	5	0	1	(1)本市のがんの年齢調整死亡率は目標達成しており、早期予防や早期発見による効果が感じられる。がん検診の受診率も目標には達していないものの乳がん以外は向上している。
(2)循環器疾患	7	3	1	(2)循環器疾患の指標である脳血管疾患や虚血性心疾患の年齢調整死亡率は低下し目標を達成しているが、高血圧等は改善が見られず、またメタボリックシンドローム該当者等の基礎的病態の指標は悪化しており、将来の循環器疾患の増加が懸念される。
(3)糖尿病	2	0	1	(3)糖尿病の治療継続者の増加や血糖コントロール不良者の減少は見られるものの、糖尿病有病者は増加傾向にある。
(4)CKD(慢性腎臓病)	1	0	0	(4)新規人工透析導入者は平成27年度まで減少していたが、それ以降は微増傾向。透析開始年齢が上昇していることから、これまでのCKD対策等により透析開始を遅らせることができていると考えられるが、依然として透析の原疾患としては糖尿病が最も多い状況が続いている。
合計	15	3	3	

次期計画の方針
(1)今後もがんによる死亡のさらなる減少を目指し、がん検診受診率の向上を図るため、勧奨方法や無償検査対象の拡充検討等、必要な支援を検討する。(重点取組)
(2)循環器疾患の発症や重症化を防止するため、引き続き特定健診及び特定保健指導の周知を行うとともに、糖尿病・高血圧等の生活習慣病や食生活・運動・休養・禁煙等の生活習慣改善の啓発に取り組む。
(3)糖尿病やその予防に関する知識の普及を図るとともに、かかりつけ医と糖尿病専門医との医療連携の情報を市民に提供するなどにより、重症化予防に取り組む。
(4)CKD患者の重症化を予防するため、かかりつけ医から腎臓専門医への紹介がタイムリーに実施されるよう、かかりつけ医や市民に対し、CKD病診連携システムの周知に取組むとともに、糖尿病の発症や重症化予防の啓発を強化する。

成果指標	A	B	C	評価分析
(1)こころの健康	1	0	2	(1)自殺者数は減少傾向にあるものの、睡眠を十分にとっている市民の割合やストレスをためないよう気分転換を図っている市民の割合は減少しており、平成28年熊本地震やコロナ禍の影響を受けていると考えられる。
(2)次世代の健康	1	2	4	(2)肥満傾向にあるこどもの割合は増加傾向にあり、将来的な生活習慣病の発症が懸念される。
(3)働き盛り世代の健康	0	2	0	(3)特定健康診査の受診率や特定保健指導の実施率は横ばい傾向にあり、目標に近づいているとはいえない。
(4)高齢者の健康	2	1	0	(4)65歳以上の元気な高齢者の割合については、目標を達成しているが、コロナ禍において、外出の機会や家族・友人との交流が減少したこと等により、高齢者の身体機能・認知機能の低下が危惧される。
合計	4	5	6	

次期計画の方針
(1)こころの健康の維持・向上は、地域や職域など様々な場面で課題の解決につながる社会環境の整備が重要となる。
(2)家庭や学校等での食育や運動・スポーツ等の経験を通じ、こどもの時から健康行動がとれるよう支援する。
(3)今後一層、若い世代が健康づくりに関心を持って取り組めるように啓発し、生活習慣病の予防対策を強化する。
(4)引き続き、効果的な介護予防に取り組むとともに、認知症高齢者への支援に取り組む。

成果指標	A	B	C	評価分析
(1)栄養・食生活	2	1	6	(1)20代、30代の朝食の欠食率は減少傾向にあるが、健全な食生活が実践できる市民の割合や40歳から60歳代男性の肥満者の割合、こどもの朝食での共食の割合は減少傾向にある。
(2)身体活動・運動	0	0	5	(2)1回30分以上の運動を週1回程度以上している市民の割合は伸び悩んでおり、生活習慣病の発症や重症化が懸念される。
(3)休養	0	0	2	(3)睡眠を十分にとっている市民の割合やストレスをためないよう気分転換を図っている市民の割合は減少傾向にあり、市民の心身の疲労が回復できていないことが懸念される。
(4)飲酒	5	0	2	(4)未成年者(20歳未満の者)や妊娠中の飲酒の割合は減少傾向にあるが、市民全体では飲酒の量が増加傾向にあり、生活習慣病のリスクの高まりが懸念される。
(5)喫煙	9	3	0	(5)たばこを吸わない市民の数は緩やかだが増加し、特に妊娠中や未成年者(20歳未満の者)の喫煙は大幅に減少し、受動喫煙の機会を有する者の割合も概ね減少傾向にある。
(6)歯・口腔の健康	4	0	1	(6)20歳代における歯肉に炎症所見を有する者は増加しているものの、それ以外の指標は全て改善傾向にある。ただし、1歳半及び3歳児でむし歯のない者は改善しているものの全国の政令指定都市と比較すると最下位である。
合計	20	4	16	

次期計画の方針
(1)今後も継続してメタボリックシンドロームの予防や改善に取り組むとともに、共食の重要性等食育への理解促進により一層取り組む。
(2)生活習慣病の予防や重症化を予防するため、運動に関する社会資源の情報提供や健康アプリの更なる充実を図る。(重点取組)
(3)心身の疲労回復のために必要な睡眠、休養の重要性についての情報提供を行うとともに、相談しやすい環境の整備を図る。
(4)今後も継続して飲酒による健康への影響などの情報提供や適量な飲酒の知識の啓発に取り組む。
(5)受動喫煙や喫煙をさらに抑制するため、今後も受動喫煙防止対策や禁煙支援に取り組む。
(6)歯をなくす原因であるむし歯と歯周病等についてライフステージに応じた発症予防・重症化予防に取り組む。(重点取組)

成果指標	A	B	C	評価分析
(1)小学校区単位の健康まちづくり	1	0	0	(1)市民と協働で健康をテーマとしたまちづくりを実施する校区数は増加したが、新型コロナウイルス感染症のまん延等により地域活動が制限されたこともあり、目標に達していない。
(2)健康づくりを支えるボランティアの育成・支援	1	0	1	(2)健康づくり推進に関するボランティア数等は増加しているが、地域活動に参加したことの市民の割合は減少している。
(3)企業・大学等の健康づくり活動の促進	1	0	0	(3)健康づくりできます店の登録数は目標に達していないものの大幅に増加している。
合計	3	0	1	

次期計画の方針
(1)今後も継続して小学校区単位の健康まちづくりに健康を取り入れた活動を推進する。
(2)今後も継続して市民の健康づくり活動への参加機会の拡大や情報提供など、市民一人ひとりの健康づくりを支援する環境づくりに取り組む。
(3)今後も継続して健康づくりを推進していく上で必要な企業等との連携を図る。